

「今月のテーマ～灰谷健次郎さん～」

11月23日に児童文学者 灰谷健次郎さんが亡くなられました。灰谷さんといえばデビュー作『兎の眼』以来、一貫して人の、特に子どもの「善」を信じ、訴えてきた作家でした。中学生のころ課題図書として読んだ方も多いのではないのでしょうか？そのあまりに強い信念は、私たち読者に深い感動を与えると同時に、様々な批判や反発を招いてきました。

昨今の行き過ぎたいじめ問題など、大人も子どもも殺伐とした世の中で、それでも「善」を信じ続ける信念を持ち続けることは大変だけど、だからこそ一番大切なことではないでしょうか？

心からご冥福をお祈りします。

今日の一押し？

今回は、テーマと連動して灰谷健次郎さんの代表作2作をご紹介します。

『兎の眼』 灰谷健次郎：著 理論社



ゴミ焼却場のある町の小学校で、大学を卒業したばかりの小谷先生と子供たちが共に過ごす中で互いに成長していく姿が描かれた作品。ほとんどしゃべらないがハエの生態に詳しい鉄三を始めとする個性的な小学生たちや、戦争経験があるバクじいさんを始めとする様々な大人の姿が、教師経験を持つ灰谷の筆によって鮮やかに描かれている。

『太陽の子』

灰谷健次郎：著 理論社

ふうちゃんが六年生になった頃、お父さんが心の病気にかかった。お父さんの病気は、どうやら「沖縄と戦争」に原因があるらしい。なぜ、お父さんの心の中だけ戦争は続くのだろうか？



開館時間が変わっています!!

6月から開館時間が変わっています。また、水・木曜日は休館日となっておりますので、お間違えのないようにお願いします。

開館時間 10:00～17:00

休館日 毎週 水曜日・木曜日

と 祝祭日

☆問い合わせ先

西栗倉村教育委員会 あわくら会館図書係まで

TEL 0868-79-2216

e-mail: n-kyouiku@vil.nishiwakura.lg.jp

図書館へ行こう!

11月の新着本

児童書

◎ まってる

文：森山 京 偕成社

「ぶたくん、ここでまってるよ。じきもどるから」と、うさぎくんがいました。

「うん、まってるよ」うさぎくんをまつうち、ぶたくんはありのぎょうれつをみつけました。それから、きのはががぜにそよぐおともききました。ゆうやけになっても、まだぶたくんはまっています。



◎ どこ?

作：山形明美 講談社

とびらをあけてはじまった、へやからへやへのだいぼうけん。クロはどこ? さがしものは、まだまだたくさん。

さあ、さがして、みつけて、とびらをあけて! ここにあるのは、ふしぎなたびであっただいじなおもいで。

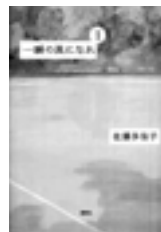
どのへやにあったものか、さがしてね。どこ…。



◎ 一瞬の風になれ 1

著：佐藤多佳子 講談社

春野台高校陸上部。とくに強豪でもないこの部に入部した2人のスプリンター。ひたすらに走る、そのことが次第に2人を変え、そして、部を変える——。「おまえらがマジで競うようになったら、ウチはすげえチームになるよ」思わず胸が熱くなる、とびきりの陸上青春小説、誕生。



一般書

◎ ドライブイン蒲生

著：伊藤たかみ 河出書房新社

ここに来る人は、みんなどこかに行く途中の人やねんで——はぐれ者でハンパ者の父の血を継いだのは、僕ではなく姉だった。大阪を舞台に、蒲生家の血を受けた姉の一瞬の輝きを描く傑作。芥川賞候補作「無花果カレーライス」収録。



◎ うちの3姉妹

著：松本ぶりっつ 主婦の友社

うわさの爆笑人気ブログいよいよ単行本化! 長女・フー (6歳おっぺけべ)、次女・スー (3歳・自由人)、3女・チー (1歳・社長) のマイペースな3姉妹が巻き起こす日々の「事件」を新進漫画家の母が味のあるマンガとエッセイで綴る子育て奮戦記。



◎ ルーシー・デズモンド

著：松尾清貴 小学館

京都市内で謎の連続殺人事件が発生。発見された五遺体はすべて内臓を摘出されていた。捜査を進める警視庁捜査一課の代峰サチは、やがて被害者の全員がアイネクライスタという香水の愛用者であったこと、HIV陽性であったことを突き止める。警察内では、謎の連続殺人を表す符牒〈ルーシー・デズモンド〉がささやかれ始めるが…。

